

頭山翁生家の「手植えの楠」

早良区役所

今昔写真集に掲載



写真集に掲載された頭山翁生家の手植えの楠（左）と、上二が写っている写真（部分）。写真下に見えるのは西鉄市内電車の貫線。左が天神方面、右が浜方面。（写真は福岡市総合図書館所蔵のフクチ新聞資料）

西新緑地の手植えの楠



東島勉さん



苗木を植えて百年以上。

返った。

福岡市早良区西新二丁目 小公園「西新緑地」に雄々

進藤元市長の意受け 妹尾元理事長が奔走 当時の福岡市担当者が明かす

「早良区お宝写真今昔物語 いくね！」に解説文をつけて掲載されている。

写真集は同区の地域愛の醸成を目的に発行されたが、郷土が生んだ頭山翁や玄洋社の存在が若い世代に

頭山翁の生家を含む一帯

進藤市長は玄洋社記念館

理事長でもあった。妹尾先

生は進藤先生の後を受けて

理事長を務めた人。二人は

兄弟のように親密で、市政

では進藤市長を妹尾先生が

議会から支えた。

苗木を植えて百年以上。

返った。

現在地への移植



報 館

玄洋121号

平成27年4月1日

発 行

一般社団法人
玄洋社記念館

郵便番号 810-0062
福岡市中央区荒戸三丁目
6-36 西公園ハイツ201号
電話 (092) 762-2511
FAX (092) 762-2502

玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
- 第二条 本国ヲ愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽ 「振武館」活動を再開 2面
- ▽ 「先人館」開設へ向け前進 2面
- ▽ 「筑前風濤録」頭山満と玄洋社 2面
- ▽ 「廣田弘毅先生顕彰祭」日程決まる 3面
- ▽ 「賛助会員芳名録」 3面

も知られるよい機会になるに違いない。楠は、市街地再開発事業（西新エルモール）に伴って生家から西新緑地へ移されたのだが、移

植にまつわる秘話を、直接

事業に携わった当時の市の

担当者が明かしてくれた。

頭山翁の生家は、旧国道

を挟んで西新緑地の向かい

側に当たる西新四丁目にあ

った。頭山翁は慶応元年（一

八六五）、十歳のとき「楠

木正成のような立派な人にな

りたい」という願いを込

めて、生家の庭に苗木を植

えた。楠は生家の庭で大き

く成長した。

を対象に、昭和四十九年、

市街地再開発事業の実施が

決定した。

対象地域の家屋は立ち退

くことになる。そこで、事

業内容にはなかった楠の移

植構想が持ち上がった。

「あの時、市会議員の妹

尾憲介先生（故人）から、

（楠の保存を）何とかでき

ないだろうか、という相談

があった。たぶん、進藤一

馬市長（同）の意を受けて

のことだろうと思います」

NPO法人「グリーンシ

ティ福岡」理事長の東島勉

さん（79）は語る。東島さ

んが「市都市計画局の公園

計画係長か課長のころ」だ

った。

進藤市長は玄洋社記念館

理事長でもあった。妹尾先

生は進藤先生の後を受けて

理事長を務めた人。二人は

兄弟のように親密で、市政

では進藤市長を妹尾先生が

議会から支えた。

生家の楠は大木になってい

た。大木の移植は活着が難

しい。今のように樹木の栄

養剤も薬剤もない時代。東

京農大造園学科出身の東島

さんも確信が持てず、九州

大学農学部教授に助言を

請い、造園業者にも技術協

力を求めた。

市街地再開発事業の傍らの

時間を制約された条件下で

の作業で、根の養生も十分

ではなかった。楠は、更地

になった再開発事業地域内

にいったん植えて保管さ

れた。生家にあった頭山翁の

兄、筒井亀來翁揮毫「頭山

翁手植之楠」の碑も移設さ

れた。楠は、その後も支障

なく育った。

「なにしろ大木なのでト

ラックには載らず、運送会

社は特殊な運搬車を持って

きました」と東島さんはお

よそ四十年前の奮闘を振り

鳥飼八幡宮境内の柔道場

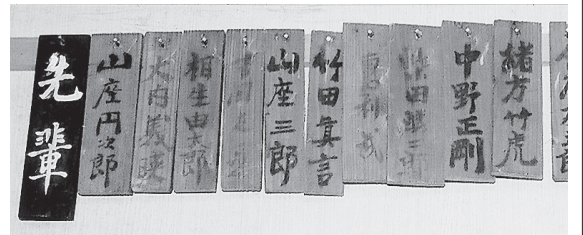
「振武館」活動を再開

活動を休止していた鳥飼八幡宮（福岡市中央区今川）稽古は毎週火曜日の午後六時半から同八時まで。の柔道場「振武館」が、昨年九月から稽古を再開した。

同八幡宮氏子でもある野崎裕介さん（30）は、同区荒戸二丁目が館長に就任、同館OBのお孫さんら幼稚園児から小学生まで四人の門弟が再開一期生として受け身



鳥飼八幡宮境内の「振武館」



玄洋社先覚の名前が見える道場の名札

を館長に「振武館」の再開が決まった。「孫に柔道を習わせたい」という「振武館」OBの箱馬八郎さん（74）も名誉師範で加わり、昨年七月五日に賛同者ら関係者が列席して、道場開きを

「振武館」の創設は少年・山座円次郎ら

「振武館」は、玄洋社先覚との関わりが深い。創設は玄洋社が誕生した翌年の明治十三年。後、外交官となる山座円次郎（当時十五歳）や軍人となる吉岡友愛（当時十八歳）がいずれも後に玄洋社員から青少年が、錬成グループ「達聡舎」を結成。鳥飼八幡宮に近い福岡市地行西町（現、中央区今川）の米屋の空き倉庫を借りて読書や練武に励んだ。まだ、名称はないが、これが「振武館」の前身である。

「先人館」開設へ向け前進

玄洋社記念館理事で福岡市議会議員の妹尾俊見氏が提唱している「先人館」の開設が実現へ向けて一歩を踏み出した。

妹尾理事の提唱は、昨年三月に閉校した大名小学校の、昭和四年建設の校舎を保存し、中に市政の歩みの展示館と、玄洋社先覚はじ

め福岡の歴史を紡いだ先人たちの偉業を伝承する「先人館」を開設しようというもの。同校は福岡県初の総理大臣、廣田弘毅先生の母校。「先人館」は妹尾理事が名づけた仮称。

昨年十二月の市議会の一一般質問で妹尾理事が「ぜひ実現を」と市に迫り、市は

学校跡地の活用を検討する委員会を設置する、と答弁。地元住民や行政、学識者で構成する検討委員会を設置され一月二十九日、一回目の会合が開かれた。平成二十七年途中で施設整備の基本方針がまとめられる。

高島宗一郎市長も「歴史を礎にこれからの福岡をつくる」というメッセージを込めた場にした」と議会で述べている。

筑前風濤録

頭山満と玄洋社

柳 猛直

〈5〉

題字は進藤一馬福岡市長

試練の時代

（前号より続く）

嘉永六年（一八五三年）六月、ペリー提督に率いられたアメリカ東インド艦隊の浦賀来航によって幕藩体制は大きな衝撃を受け根底から揺れ始める。変革を望む有志、青年たちの動きは大きなうねりとなり、やがて激しい風濤のように幕府の足もとに打ち寄せてくるのである。

幕府、諸侯もこれに対応して、あるときは強圧によって、ある時は宥和手段で事態を切り抜けようとするが、時の流れに抗することはできず幕府は瓦解し、代わって明治新政府が登場する。

この大転換の時代に筑前藩はどう対処したか。そのことは藩士たちの運命にも大きな影響を及ぼし後年、玄洋社が生まれる要因ともなるのである。

箱田、進藤、頭山等矯志社の同志たちが福岡の獄舎を出た明治十年（一八七七年）からペリー来航の嘉永六年（一八五三年）まで時間を引き戻してみよう。この間は二十四年、およそ四分の一世紀である。

嘉永六年、浦賀沖にアメリカ東印度艦隊の四隻の黒船が姿を現し提督ペリーが日本の開国を迫ってきた時、幕閣の動揺は大変なものであった。

ペリーの来日は決して寝耳に水の突発事件ではなかった。既に七年前の弘化三年（一八四六年）にもアメリカの使節が開国を打診するために来日しておりオランダからも「アメリカの開国使節がやってくる」という警告を受けていたのである。

（この項続く）



鈴なりの絵馬

◆にぎわう春の天満宮

学問の神様、菅原道真公を祭る太宰府天満宮（福岡県太宰府市）は、新年から春にかけて大変なにぎわいを見せる。初詣客は三日で二百万人を下らない。

その後は、中学、高校生が入学試験の合格祈願に訪れる。境内の随所に設けられた柵には、願い事を記した絵馬がびっしり。〇〇高校に、△△大学に、合格しますように。文字に込められた願いは切実。祈願に訪れる生徒はほとんどが私服。かつのような制服姿は見られない。



◆加藤昌弘師の十三回忌

法要 筑前黒田藩の勤皇派家老、加藤司書公の菩提寺、節信院（福岡市博多区御供所町、喜納浩一住職）の前任職、加藤昌弘師の十三回忌法要が命日の七月十六日午前十一時から同寺で執り行われる。

「廣田弘毅先生顕彰祭」

今年5月16日に齋行

不条理な判決に一言の弁解もせず刑場に消えた悲運の宰相、廣田弘毅先生のご遺徳を顕彰する「廣田弘毅先生顕彰祭」を、今年5月16日（土曜日）午前11時から齋行します。一般社団法人玄洋社記念館の主催です。場所は福岡市内5

場所は福岡市内5か所。お問い合わせ下さい。

賛助会員芳名録

（3月3日現在・敬称略）

▼個人の部

- 〔三万円〕 花田 勲（東京都）
- 〔二万円〕 加藤 幸子（古賀市）
- 秦 惟人（太宰府市）
- 酒井 智暁（鹿児島市）

平成27年度

会費納入のお願い

玄洋社記念館賛助会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは、当記念館の諸事業にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度は太平洋戦争の終戦から七十年です。人であれば古稀に相当するこの年月を、日本国民は、平和国家を目指して歩んできました。そして今日の日本。物心双方を反映する諸現象に、国民の思いはさまざまでしょう。

【賛助会費の額】

- ▼法人・団体会員 二〇三万円
- ▼個人会員 一〇一五円

玄洋社記念館は、創設者、故進藤一馬先生の意志を体し、戦争回避に腐心した廣田弘毅先生、東條英機に抵抗した中野正剛先生の顕彰行事を催し、アジアの平和を願った頭山満翁はじめ玄洋社諸先輩の精神の伝承に努めております。

【郵便振込】

口座番号 017701120738

【銀行振込】

西日本シティ銀行赤坂門支店 普通預金 口座番号 0740047

さて、本年も四月を迎えるにあたり、当記念館は同月一日から平成二十七年度分の賛助会費の受け付けを始めさせていただきます。

宛名は「玄洋社記念館」です。一般社団法人 玄洋社記念館 一般社団法人 玄洋社記念館

建設コンサルタント 建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理

ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社 代表取締役会長 花田 和久

代表取締役社長 児玉 久 本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一九

東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目二二一〇 千葉、浦和、神奈川、山口、佐賀、北九州、大分、長崎

株式会社 アキラ水産

代表取締役社長 安部 泰宏

AKIRA 代表取締役社長 安部 泰宏

株式会社 オー・エー企画

代表取締役 入江 秀雄

810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目11-82

造園・緑化 自然とコミュニケーション

株式会社 別府梢風園

代表取締役社長 別府 壽信

本社 〒812-0255 福岡市東区青葉一丁目六〇一五三

（財）日本医療機能評価機構認定

開放型病院・臨床研修指定病院

特定医療法人

原土井病院

理事長 原 寛

〒813-8588 福岡市東区青葉6丁目40番8号 092-691-3881(代)

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 63 回

同時代から見た頭山満

―書と人物―

⑦

頭山満または立雲という署名のある書をたくさん見て思うのは、頭山満は字がうまいのか、へたなのかかわからないということです。見れば見るほど混乱してしまいます。いくつかの理由を考えてみます。

1 署名はあるが印が押されていない。：偽物の可能性がありますが、右上の一類、左下の署名の下の二類は基本的にそろっていないといけません。しかし三類がそろっていない本物の中にはあります。署名は草書「頭」+楷書「山」+極端にくずした草書「満」です。この特徴を欠いた署名はやはり偽物が疑われます。

2 署名があり、印も押されていて、竹筆を使用している。：竹筆の特徴は、墨がボテ



題額

しが極端です。一日に何十枚、何百枚も書くことがあったとすると、力がなく、墨継ぎをせず、ひよろひよろした線になることもあるでしょう。本物であっても書から受ける感銘が薄くなるのはやむをえません。署名と印を満たしていても、頭山の周囲の人たちが代筆した可能性も疑われるようです。あまりもの頭山の忙しさに、援助の手を差し延べたところでしょうか。

今回の紹介するのは、神田優さんからお送りいただいた情報です。千葉県館山市・洲崎神社に頭山書の題額を持つ記念碑がありました。題額とは石碑の正面の上部に額縁のような枠があり、そこに碑の名称が書かれています。この場合は「敬神風化之碑 頭山満」で、書体は篆書です。頭山満が竹筆を用いず、しかも篆書を書いているというのは非常に珍しいと言えましょう。碑文は次の通り（神田さんから送られた写真を読み取り、茗などで読めないところは神田さんのメモを参照）。

3 竹筆を使用していない。：これは偽物の可能性が生じます。殊に書道のお手本のよいうな端正な文字を見ると、頭山の本物の書を見れば、書いたのではないかとすら思えます。しかし頭山自身がある時期から竹筆を用いるようになるので、それまではふつうの筆を使っていたわけですし、竹筆を使っている時期であっても、改まった形のものには、あえて竹筆を用いて

いないようです。後の頭山の書のように独特の、躍動する筆致でなくとも、つまりどちらかというと書道のお手本に近い字であったり、本物と思われる場合があります。枯れた味わい、精神的な高みを感じさせるような、頭山らしさのある書は、いったんは書道のお手本に忠実な、個性のない書をくぐり抜けたものかもしれないと思います。



碑 全景



洲崎神社 全景

忠実勤儉ノ民風、荒急ヲ相誠メテ剛健精神ヲ礎（読み不明）ク。千葉県安房郡西岬村（現館山市）洲崎区民等惟レ和シ、大正大震災ニ倒潰セル洲崎神社ノ拜殿ヲ直ニ復旧シ、祭神天比理乃咩命ノ不頭ナル御神徳ニ答ヘ奉リ、民安堵、業福祉ノ万古ナランコトヲ懸望祈願シ、神威加ハル。漁船ノ根拠地栄之浦港ト、間口港ノ大震災変ヲ、大正十四年六月復旧シテ、二港繋船ノ便ヲ計リ、更ニ二年八箇月ヲ費シ、港内ニ推（堆）積セル泥土ノ浚渫事業ヲ完成シタルニ、半歳ニシテ昭和十一年十一月三日大海瀧（嘯）襲来シ、間口港ノ堤防ヲ決潰スルノ災厄ニ遭会ス。区民等直ニ復旧ノ工ヲ起スト同時ニ、旧態ノ神社

社務所ノ新築ヲ進
行セシメテ、堤防
ハ翌年七月竣工セ
リ。敬神ノ念厚キ
区民等、災厄頻リ
ニ至ルモ倦（倦）
マズ。数回ノ工事
ニ僅々五十七戸ノ
区民ガ和衷協同シ
テ、四万余円ノ巨費ト勞務
ヲ醸出分担シ、表誠飽クナ
ク神ノ宣揚ニ勉メタルハ、
日本精神ヲ孚尹セシムルモ
ノ。其業ヲ伝ヘテ後昆ニ貽
サントスル志ノミナラズ、
伝ヘテ美シキ教本タルベキ
モノト信ズ。

紀元二千五百九十七年八月 頭山 満題額
明治大学教授 藤澤 衛彦撰文并書
昭和十二年（一九三七）
※情報をお寄せ下さった野村雄造様、ならびに写真などを提供下さった神田優様に深謝します。